

くらしの疑問??

～テスト室への問い合わせから～

道立消費生活センターの商品テストグループには、道民の皆さんから衣食住に関するさまざまな問い合わせや苦情が、年間約300件寄せられます。その中からくらしに役立つ話題を紹介します。



にがイトマト

Q. 購入したトマトを湯むきして食べたところ、苦みがありました。農薬が原因ではないでしょうか。

天然成分アルカロイド

A. トマトには「アルカロイド」という苦味成分が含まれています。通常は生育とともに減少しますが、稀に天候不順などによる日照、水分不足で熟したトマトにもアルカロイドが残り、苦みや薬品のような匂い、舌にピリピリ感を感じることがあります。また、アルカロイドは熱に強いので、湯むきで熱をかけても苦みを感じたと思われ
ます。含まれる量は微量なので、食べても問題ありません。



モバイルバッテリーの寿命

Q. 5年ほど前に購入したモバイルバッテリーを、充電が少ない状態から満充電するとすぐに100%となり充電が終わってしまいます。故障でしょうか。

劣化の目安は500回

A. リチウムイオン電池は、寿命が充電サイクル500回（0%から100%まで充電した場合の回数）としているものが多く、個体差はありますが500回で使い始めの5～7割程度に劣化すると言われて
います。今回5年程度使用しているとのことで、電池の劣化が進んだ状態であり、寿命による買い替え時期を迎えていると思わ



れます。モバイルバッテリー以外にも充電電池が交換できない充電式の家電製品は、電池寿命が製品の寿命となってしまうことが多々あります。

冷蔵庫の電気代

Q. 20年近く使用している冷蔵庫の調子が悪く、また省エネが進み電気代の節約を期待して買い替えることにした。ワットチェッカー（電力測定器）を使用して新旧冷蔵庫の電気代を比較したが、ほとんど変わらなかった。買ったばかりだが故障ではないか。

容量や使用環境も影響

A. 買い替えによる節電効果は、同じ容量で比較すればかなり進んでいるケースが多いですが、容量の大きなものを買った場合は以前使用していたものよりも消費電力が大きくなることもあります。また購入の際に表示されている消費電力量は一定の条件のもとで測定したもののため、自宅での使用環境により実際はその値よりも大きくなる場合もあります。製品の消費電力量や年間の電気代はひとつの目安として参考にすると良いでしょう。また猛暑日などで室温が異常に高い状態が続いたり、冷蔵庫内の物の詰め方や開閉回数でも大きく変わるため注意が必要です。冷蔵庫以外の家電製品も、表示されている年間電気代等はあくまで目安と考えると良いでしょう。



リカバリーウェアの効果

Q. 最近、着用するだけで疲労回復するという「リカバリーウェア」が話題です。医療機

器として販売されていて腰痛、神経痛の改善をうたっているものもあると聞きます。本当に効果があるのでしょうか。

一般医療機器ではあるが…

A. 現在、多くのリハビリウェアが厚生労働省が2022年に新設した一般医療機器の「家庭用遠赤外線血行促進用衣」として届出を行った上で販売されています。一般医療機器の定義は「副作用又は機能の障害が生じた場合においても、人の生命及び健康に影響を与えるおそれほとんどないもの」とされています。すなわち、人体への影響がごく軽微であるものを対象とする分類であるため、その使用目的や効果においても、使用者への影響はごく限定されたものであることが前提であるとされています。

家庭用遠赤外線血行促進用衣はこのカテゴリーの一つであり、遠赤外線の血行促進作用により疲労や筋肉のこり等の症状改善を行うことを目的とした、衣類形状の器具をいいます。2025年3月に厚生労働省が出したQ & A(※1)の中で、記載できる効能効果は「疲労の回復」や「筋肉のこりの症状改善」等の範囲に限られ、「筋肉痛、腰痛、生理痛、神経痛、関節炎等の症状改善や消炎効果」「むくみの改善」「代謝の促進」「運動効率の向上」「冷え性の改善」等の記載は上記に示した一般医療機器の定義から逸脱する可能性が高いため行うことはできないとしています。



「医療機器」という言葉のみに惑わされず、よく検討して購入することが重要です。

※1 「一般医療機器『家庭用遠赤外線血行促進用衣』の取扱いに係る質疑応答集(Q & A)について」厚生労働省

ピリングって何？

Q. 衣類に毛玉ができ、メーカーに苦情を言ったところ、ピリング性能に問題はないと言われました。ピリングって何ですか？

衣類にできる毛玉

A. 毛玉のことを英語でピルといいます。ピリングは毛玉が生じる現象のことをいいます。撚り(より)が甘い糸を使用した毛製品や、起毛品、ザックリ編みのセーターなどにピルができやすい傾向にあります。製品の特性上ある程度はやむを得ない場合もあります。ウール100%の場合は毛玉が自然に脱落することが多いため、ひどい状態にはなりにくいです。一方、アクリルやポリエステルなど合成繊維が混紡された製品の場合は、合成繊維が簡単に切れないため、毛玉が脱落せずに生地上に残ったままになり外観がひどくなることが多いです。ピリングを評価する試験としてはJIS L 1076「織物および編物のピリング試験方法」があります。一般的に3級以上が望ましいとされる業界基準があり、品質の参考とされています。着用後はこまめなブラッシングにより毛玉の発生を遅らせることができます。



調べてほしいことはありますか？

今回掲載した事例以外にも食品の塩分量や成分検査、繊維の色落ちのテスト、金属類の材質検査なども可能です。

ご希望の方は北海道立消費生活センターへお問い合わせください(相談専用電話050-7505-0999)。

なお、テストは無料ですが、テスト品の送料はご負担ください。

